

指導と評価の年間計画

教科名	地理歴史	科目名	地理 B	学年 (文理)	2年 (理)	単位数	2
使用教科書	新詳地理 B (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院)			補助教材等	新詳地理資料 (帝国書院) ニューコンパスノート (とうほう)		
目標 【学習指導要領】	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。						
到達目標に向けての具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地球儀や様々な地図の活用及び地域調査などの活動を通して、地図の有用性に気付かせるとともに、地理的技能を身に付けさせる。 ・世界の自然環境、資源、産業、人口、都市・村落、生活文化、民族・宗教に関する諸事象の空間的な規則性、傾向性やそれらの要因などを系統地理的に考察させるとともに、現代世界の諸課題について地球的視野から理解させる。 ・世界の地形、気候、植生などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や人間生活とのかかわりなどについて考察させるとともに、現代世界の環境問題を大観させる。 ・世界の資源・エネルギーや農業、工業、流通、消費などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や動向などについて考察させるとともに、現代世界の資源・エネルギー、食料問題を大観させる。 ・世界の人口、都市・村落などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や動向などについて考察させるとともに、現代世界の人口、居住・都市問題を大観させる。 ・世界の生活文化、民族・宗教に関する諸事象を取り上げ、それらの分布や民族と国家の関係などについて考察させるとともに、現代世界の民族、領土問題を大観させる。 						

月	単元名	帝国書院 地理 B	時	A到達目標・B具体的な取組・C評価の規準	評価方法
4月	第1部 さまざまな地図と地理的 技能 1章 地理情報と地図 2章 地図の活用と地域調査	地理の授業について 自然と地形 世界の自然	4	A ・さまざまな地図がもつ社会的な役割の重要性を理解する。 ・地形図の記号を理解する。 B ・地図の利用方法を調べ、時差が求められるようにする。 ・地形図で位置やルートがたどれるようにする。 C ・地域調査レポートの作成	プリント確認 行動観察 小テスト ニューコンパスの確認
5月	第2部 現代世界の系統地理的 考察 1章 自然環境 1 世界の地形 ・世界の大地形	世界の大地形 内的営力 プレートの運動と境界	5	A ・大地形の成因であるプレートテクトニクス理論を理解する。 ・地震や火山の災害について理解する。 ・二つの造山帯および安定陸塊の地形的特徴と分布を理解する。 B ・プレートの分布図を作成する。 ・大地形の分布図を作成する。 C ・発表活動による評価。	行動観察 プリント確認 小テスト 課題実力テスト
6月	・外的営力によってつくられる小地形 ・その他の地形 2 世界の気候 ・気候の成り立ち	世界の小地形 日本の地形環境 読図による地形の理解 気候要素と気候要因 世界の気候 熱気候 乾燥気候 温帯気候	6	A ・小地形の特徴と土地利用について理解する。 ・さまざまな地形の特徴と成因を理解する。 ・気候を構成する要素について理解する。 B ・小地形の地形図から、特徴を読み取れるようにする。 ・さまざまな地形を示す写真の判別ができるようにする。 ・気象情報が具体的にイメージできるようにする。 C ・机間指導による観察および発表活動による評価。 ・地形図の作業の確認。 ・定期考査 (前期中間)	定期考査 行動観察 プリント確認 小テスト
7月	・世界の気候区分 ・植生と土壌	冷帯気候 寒帯気候 植生・土壌	4	A ・ケッペンの気候区分の原理を理解する。 ・それぞれの気候帯と気候区の特徴を理解する。 ・気候と植生、土壌の関連を理解する。 ・気候とともに、植生・土壌といった気候と密接につながる地理環境について理解する。 B ・雨温図、ハイサーグラフの示す内容を読み取れるようにする。 ・それぞれの気候区の特徴が、写真から読み取れるようにする。 C ・机間指導による観察および発表活動による評価。	行動観察 ノート確認 小テスト ニューコンパスの確認 課題実力テスト
8月					
9月	3 日本の自然の特徴と人々の生活 4 環境問題	日本の気候環境 日本の知恵期・気候と災害 現代の環境問題 温暖化・森林破壊・砂漠化・大気汚染 日本の環境問題	5	A ・日本列島の地形的特色を理解する。 ・日本の気候的特色を理解する。 ・日本の自然災害と防災について理解する。 ・さまざまな環境問題を、自然や人間活動とのかかわりにおいて理解する。 B ・日本の地形、気候区分を地図で読み取れるようにする。 ・自然災害の原因と影響について説明できるようにする。 ・環境問題の下人と影響について、地図を用いて説明できるようにする。 C ・机間指導による観察および発表活動による評価。 ・定期考査 (前期期末)	定期考査 行動観察 小テスト
10月	2章 資源と産業 1 産業の発達と変化 2 世界の農林水産業 ・農業の発達と分布 ・世界の農業地域区分	世界の農林水産業 世界の農業地域区分 自給的・商業的・企業的農業	7	A ・農業に影響を与える条件について理解する。 ・自然条件や社会条件をふまえて農業地域区分を理解する。 B ・それぞれの農業地域を示す写真から特徴が読み取れるようにする。 ・図を見て、その農業や作物の特徴が説明できるようにする。 ・農業地域の分布図の作成、区分を表にまとめる。 C ・机間指導による観察および発表活動による評価。	行動観察 課題テスト プリント確認 小テスト
11月	・現代世界の農業の現状と課題 ・世界の林業・水産業	農業の近代化と課題 途上国における農業 グローバル化の中の農業	5	A ・農業の国際化による影響について理解する。 ・世界の林業・水産業の現状と課題について理解する。 ・日本の農林水産業の特徴と課題について理解する。 ・先進国と発展途上国における食料問題の違いを理解する。	定期考査 行動観察 プリント確認 小テスト

	<ul style="list-style-type: none"> 日本の農林水産業 <p>3 食料問題</p>	<p>世界の農林水産業 日本の農林水産業 食料問題</p>		<p>る。</p> <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業統計が読み取れるようにする。 先進国と発展途上国の関わりについて説明できるようにする。 世界の中の日本の農林水産業の位置づけが説明できるようにする。 <p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> 机間指導による観察および発表活動による評価。 授業プリントの確認。 	
12月	<p>4 世界のエネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉱産資源 資源・エネルギー問題 	<p>エネルギー・鉱産資源</p> <p>資源をめぐる問題 日本の資源・エネルギー問題</p>	5	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> エネルギー資源の種類と分布について理解する。 鉱産資源の分布と利用について理解する。 資源をめぐる争いについて理解する。 エネルギー利用の問題について理解する。 <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 資源の分布と流通を、地図で説明できるようにする。 日本の資源・エネルギー問題について、統計資料を基に説明できるようにする。 <p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> 机間指導による観察および発表活動による評価。 授業プリントの確認。 定期考査（後中間） 	<p>課題テスト 行動観察 プリント確認 小テスト 定期考査</p>
1月	<p>6 世界の工業</p>	<p>工業の立地、特色 世界の工業地域 日本の工業</p>	5	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> 工業の発達と立地について理解する。 世界の工業地域を、先進地域と発展途上地域に分けて理解する。 日本の工業の発達と現状について理解する。 <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 工業立地の特徴について説明できるようにする。 世界の工業地域を、地図で示しながらその特徴を説明できるようにする。 工業のグローバル化について世界や日本の状況が説明できるようにする。 <p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> 机間指導による観察および発表活動による評価。 授業プリントの確認。 	<p>行動観察 ニューコンパスの確認 プリント確認 小テスト 課題実力テスト</p>
2・3月	<p>7 第3次産業</p> <p>8 世界を結ぶ交通・通信</p> <p>9 現代世界の貿易と経済圏</p>	<p>現代世界の第3次産業 世界の観光業</p> <p>私たちの生活を支える貿易</p>	6	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> 第3次産業の現状と発展について理解する。 世界の観光の国際化と多様化について理解する。 さまざまな交通機関の発達と課題について理解する。 貿易による国や地域の結びつきについて理解する。 日本の貿易の現状と課題について理解する。 <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 統計資料から、第3次産業の発展が読み取れるようにする。 統計資料から、貿易の特徴が説明できるようにする。 観光による地域の変化について説明できるようにする。 交通機関の発達による地域の結びつきについて説明できるようにする。 情報化社会における国や地域の結びつきについて説明できるようにする。 <p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> 机間指導による観察および発表活動による評価。 授業プリントの確認。 定期考査（学年末） 	<p>行動観察 プリント確認 定期考査</p>

合計 54 : 50分換算(70)

単元指導計画

単元の名前 食料問題

□単元の目標

食料問題を世界的視野から地域性を踏まえて追究し、それらは地球的課題であるとともに各地域によって現れ方が異なっていることをとらえさせ、その解決には地域性を踏まえた国際協力が必要であることなどについて考察させる。

□単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
食料問題について、食料需給の地域的かたよりや不安定さに関する考察を基に、発展途上国や先進国、日本の食料問題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	食料問題について、発展途上国や先進国、日本の食料問題の状況とその成因を、系統地理的に捉える視点や考察方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	食料の生産と消費の地域的かたよりに関する統計や事例などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、食料問題について読み取ったり図表などにまとめたりしている。	発展途上国、先進国、日本の食料事情の動向について、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身に付けている。

□指導と評価の計画

次 程	学習活動	評価の観点				評価規準等
		関	思	技	知	
第 一 次 （ 目 ） 時 間	<p>【ねらい】 I p a d、地図、統計、新聞記事などから有用な情報を選択し、発展途上国の食料問題の要因と食料分配の偏りをワークシートにまとめ、発表する。</p> <p>○国連世界食糧計画の作成した「ハンガーマップ」から、世界の飢餓状況を理解し、どんな特徴があるのかペアで考察し、発表する。</p> <p>○西アフリカのサヘル地域の食料問題の原因をまとめる。</p> <p>○ブルキナファソとマリ共和国について、両国の関係と食料問題の実情について理解する。</p>	●		●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・食料の需給と供給には地域的な偏りがあり、食料は平等に分配されていないことを考察でき、特徴をまとめ発表することが出来る。 ・インターネット、諸資料から、サヘル地域における食料問題の原因を気候変動による要因と干ばつや放牧による砂漠化が問題であることを理解し、考察することが出来る。 ・新聞記事、インターネットから、マリ共和国の国情を理解し、難民問題、水不足、食料問題を考察することが出来る。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">第二次 (1時間目)</p>	<p>【ねらい】 I p a d、地図、統計、新聞記事などから有用な情報を選択し、先進国における食料消費の問題点を食糧資源の有効利用の点から考察し、ワークシートにまとめる。</p> <p>○アメリカにおけるソウルフードの新聞記事を見て、食料問題からアメリカの社会問題を考察する。</p> <p>○肉類消費量の資料から、飼料作物と飢餓の因果関係を考察する。</p> <p>○小麦の輸出の地図、海外青年協力隊、NGOの活動などを見て、先進国の役割と課題についてペアで話し合い、まとめる。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ● ● ● <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事を読みとり、アメリカの差別の歴史と食生活の関係を理解し、現代残る社会問題を理解し、まとめることができる。 ・統計資料とインターネットから、穀物総生産量と世界人口、畜産に使われる穀物の関係を理解し、まとめることができる。 ・諸資料、インターネットから先進国の果たすべき役割を考察、発表することが出来る。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">第三次 (1時間目)</p>	<p>【ねらい】 I p a d、地図、統計などから、肥満をキーワードに日本の食料問題についてまとめ、考察させる。</p> <p>○肥満の判定基準を学び、メタボリックシンドロームの問題点、日本人の肥満の割合と特徴について理解する。</p> <p>○各グラフ、統計の有用な情報を結びつけ、設問に対する証明、まとめて発表する。</p> <p>○各設問のまとめから、日本の食料問題を考察し、まとめる。</p> <p>○日本の食料問題から、課題意識を高め、それを意欲的に追究し、まとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ● ● 	<ul style="list-style-type: none"> ● ● ● 		<ul style="list-style-type: none"> ● ● ● <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットからBMI値の計算、メタボリックシンドロームの定義を調べ、日本人の肥満の割合と特徴について読みとることが出来る。 ・グラフや統計などの有用な情報を適切に結びつけ、読みとると共に設問の答えにまとめることが出来る。 ・肥満から日本の食料問題をまとめ、表現することが出来る。 ・日本の食問題を身近な問題とし、課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。

学習指導案

日時	平成○年○月○日(○)第○限	指導クラス	2年○組(男子○名、女子○名)	指導者	○○ ○○
教科(科目)	地理歴史(地理B)	単元名	日本の食糧問題(3時間目/3時間)		
教科書	『新詳地理B』(帝国書院)				
本時の主題	肥満から日本の食糧問題を考える。				
本時の目標	I p a d、地図、統計などから、肥満をキーワードに日本の食料問題についてまとめ、考察し、発表する。【資料活用の技能】				

	指導の内容・ねらい	学習活動	指導上の留意点・観点別評価
導入	厚生労働省の資料を用い、肥満の基準、原因、何が問題であるかを理解する中で、肥満が日本の社会問題であることを理解する。	<p>○プリント1. (1) BMI 計算(資料1)により肥満を認定(資料2)することを理解する。ワークシートをまとめる。 ※資料を配布。インターネット(I p a d)から、「厚生労働省 肥満」を検索。</p> <p>○プリント1. (2) メタボリック症候群が社会問題であることを認識する。ワークシートをまとめる。 ○発表を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア学習 ・プリント配布 ・机間巡視
展開	<p>20歳以上の肥満のグラフの推移から、男性が20年前より、どの年齢層も肥満が増加、食べ過ぎと運動不足が原因であることを読みとる。</p> <p>日本人の肥満から食料問題を考える。 ①～⑩の資料を適切に読みとり、考察し、食料問題に結び付けまとめる。</p>	<p>○プリント1. (3) 【問1～3】 インターネット(I p a d)を使用、資料を配付。日本人の肥満の割合(資料3)について、資料を読み取り、ワークシートの問いから、日本人の男性と女性の肥満の割合と推移、肥満の原因にまとめる。 ○発表を行う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><MQ1> 「摂取カロリー量と供給カロリー量の差は何だろう？」</p> <p><MQ2> 「世界の中でも日本は食料自給が低い、言い換えるとどういことが言えるだろう？」</p> </div> <p>○プリント2. 日本人の肥満から食料問題医を考える。ワークシートにまとめる。 【①日本人は本当に食べ過ぎといえるのか?】 (1) 参考資料4～6から、①を証明する。 (2) ①で証明された情報を基に資料7を考察し、食料問題を証明する。(MQ1) ※授業プリント 解答参照 (3) 設問の(1)をまとめ、ワークシートに日本の食料問題を記入する。 答え: 設問①「食料ロスの問題」 ※資料8から、食料ロスの実態を説明する。 ○発表を行う。</p> <p>【発問】 資料4より ・「食べ過ぎかどうかを調べるためには、日本人が一日にどれだけのカロリーを摂取したかを調べよう！」 資料5より ・「基礎代謝量って、どんな意味だろう？」 資料6より ・「世界の国々と比較して日本の摂取カロリー量は多いのか、少ないのか?」 ・「供給カロリー量って何だろう？」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア学習 ・机間巡視 ・ペア学習 ・机間巡視 〈評価方法〉 行動観察・発言 <li style="text-align: right;">【技】

	<p>意見をまとめ、みんなの前で説明できる。</p> <p>日本の食料問題は考察しまとめる。</p>	<p>【②なぜ日本人は内臓脂肪型肥満になるのか？】</p> <p>(1) 参考資料9～11から、①を証明する。</p> <p>(2) ①で証明された情報を基に資料12～14を考察し、食料問題を証明する。(MQ2)</p> <p>※授業プリント 解答参照</p> <p>(3) 食料輸入依存がなぜだめなのかを説明する。</p> <p>【発問】</p> <p>資料9より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「昭和40年度と平成25年度では、摂取量の割合にどんな変化がみられるか？」 <p>資料10より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どんなものが好まれて食べられるようになったのか？」 ・「小麦は、何に使われるんだろう？」 <p>資料11より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「資料5～11から、内臓脂肪型肥満の原因は何を摂取したことによるものか？」 ・「資料11と資料12、13から、品目別摂取量と品目別自給率の関係を考えて、何が分かるかな？」 <p>資料14より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「資料14から、世界からみて日本が抱える問題を考えよう！」 <p>○発表を行う。</p> <p>○設問の(2)をまとめ、ワークシートに日本の食料問題を記入する。</p> <p>答え：設問②「食品輸入依存の問題」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア学習 ・机間巡視
<p>まとめ</p>	<p>本時の学びから、身近な問題ととらえ、課題を持って行動できる。</p>	<p>○ワークシートに自分の意見を書いてまとめる。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べ残しをしない！ ・肉や揚げ物を食べるのを減らしていきたい。等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア学習 ・机間巡視

肥満から日本の食料問題を考える！

2年()組()番氏名()

1. 肥満を知ろう！

(1) 肥満とは？

日本肥満学会が決めた判定基準では、統計的にもっとも病気にかかりにくいBMI 22を標準とし、25以上を肥満として、肥満度を4つの段階に分ける

○肥満はBMIの求め方（日本肥満学会）

自分のBMIは・・・？

BMI 計算式

$$BMI = \frac{\text{体重 (kg)}}{\text{身長 (m)} \times \text{身長 (m)}}$$

(2) 特にいけない肥満は？

内臓脂肪

型肥満

メタボリック

シンドローム

ウエスト (男性) 85 cm以上 (女性) 90 cm以上

(3) 日本人の肥満の割合は？

20歳以上男女の肥満とやせの状況の推移を表すグラフを見て、問いに答えなさい。

【問1】男女20歳以上の肥満の割合をそれぞれ答えなさい。

男性 (30.4) % 女性 (20.2) %

【問2】男性の場合どの世代が一番肥満の割合が高いか？

(50～59) 歳

【問3】男性の場合、10年前、20年前と比べ、どのような変化が見られるか？

また、女性の場合、10年前、20年前と比べ、どのような変化が見られるか？

男性の場合

○どの世代でも10年前、20年前よりぐんと肥満者の割合が増えている

○とくに40代から60代の肥満者は30%を超えている

女性の場合

○30～60歳代において肥満者の割合が20年前、10年前と比べて減少している

○20～40歳代においては低体重（やせ）が増加傾向になっている

【問4】肥満の原因は、何だと考えられるか？

食べ過ぎ

と

運動不足



摂取カロリー

の取り過ぎ

2. 日本人の肥満から食料問題を考える

①日本人は本当に食べ過ぎといえるのか？

	資料①②③から見えること	考察
(1)	資料①から、肥満の割合は上がってはいるが、摂取カロリーは10年前くらいから1700キロカロリー前後をキープしている。資料②の基本代謝量を見ても、20歳以上のカロリーと極端に離れたものとは言えない。また、世界の供給カロリー量を比べても日本の先進国の中では低い方である。	

(1) から、日本人は食べ過ぎ とは言えない

	資料④から見えること	証明
(2)	日本の国民一人あたりの供給カロリー量は2011年では、2436キロカロリーである。それに対して、実際に摂取した摂取カロリー量は、1788キロカロリーである。つまり、この供給カロリー量から摂取カロリー量を引いたものは、食べ残しと言うことになる。	

(2) から導き出される、日本の食料問題は何か？

食品ロス の問題

②なぜ日本人は内臓脂肪型肥満になるのか？

	資料①②③から見えること	考察
(1)	資料①から、昔に比べ炭水化物の摂取は減り、脂質の量は増えた。また、資料②から、畜産物、油脂類、小麦の摂取が増えた。資料③から考えて、お米、野菜や魚類の摂取は減り、牛肉や豚肉、サラダ油などの摂取量が増えた。日本の食生活が変化したことが言える。	

(1) から、日本人の肥満は 畜産物、油脂類、小麦 の摂取量が増えたことが一因。

	資料④⑤⑥から見えること	証明
(2)	資料④は、品目別の自給率を表しており、米の自給率は100%近いのに対して、2011年では、畜産物は64%、油脂類3%、小麦11%の自給率となっている。米以外は、自給率は低い。資料⑥からも、日本の食糧自給率は、世界の中でも39%と低迷している。	

(2) から導き出される、日本の食料問題は何か？

輸入依存、食品自給率 の問題

4. 日本の食料問題から私たちの出来ることは何？

- ・食生活を変える
- ・食品を買いすぎない
- ・肉中心の生活から、野菜、魚中心の食生活へ変える
- ・地産地消

参考資料

【資料1】BMI値（参考：厚生労働省 肥満ってどんな状態？より）

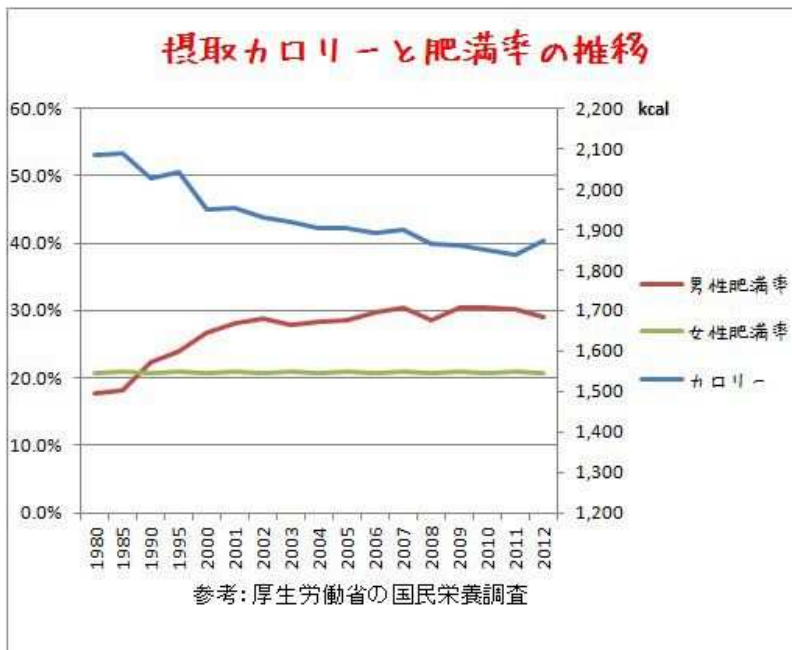
BMI計算式

$$BMI = \frac{\text{体重 (kg)}}{\text{身長 (m)} \times \text{身長 (m)}}$$

【資料2】BMI基準値（参考：厚生労働省 肥満ってどんな状態？より）

	BMI
低体重(やせ)	18.5未満
普通体重	18.5以上 25未満
肥満（1度）	25以上 30未満
肥満（2度）	30以上 35未満
肥満（3度）	35以上 40未満
肥満（4度）	40以上

【資料4】摂取カロリー量（厚生労働省 国民栄養調査より）



【資料3】肥満の割合（厚生労働省 日本人の肥満より）

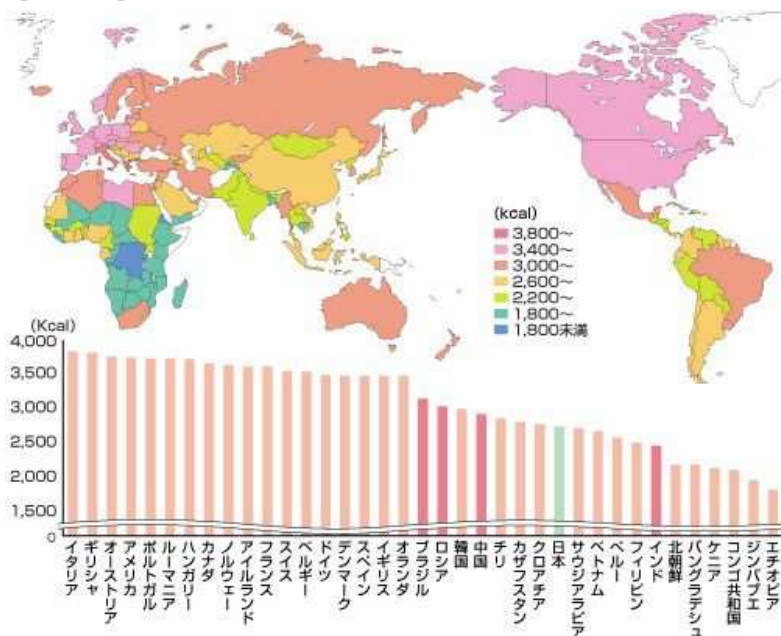
①20年前（昭和62年）・②10年前（平成9年）・③平成19年



【資料5】基礎代謝量（厚生労働省 日本人の基礎代謝値より）

年齢	男性			女性(妊婦、授乳婦を除く)		
	基礎代謝	基準体重	基準体重での	基礎代謝	基準体重	基準体重での
	基準値 (kcal/kg/日)	(kg)	基礎代謝量 (kcal/日)	基準値 (kcal/kg/日)	(kg)	基礎代謝量 (kcal/日)
1～2	61	11.7	710	59.7	11	660
3～5	54.8	16.2	890	52.2	16.2	850
6～7	44.3	22	980	41.9	21.6	920
8～9	40.8	27.5	1,120	38.3	27.2	1,040
10～11	37.4	35.5	1,330	34.8	34.5	1,200
12～14	31	48	1,490	29.6	46	1,360
15～17	27	58.4	1,580	25.3	50.6	1,280
18～29	24	63	1,510	22.1	50.6	1,120
30～49	22.3	68.5	1,530	21.7	53	1,150
50～69	21.5	65	1,400	20.7	53.6	1,110
70以上	21.5	59.7	1,280	20.7	49	1,010

【資料6】世界の1人当たりの供給カロリー（FAOの2004年の統計より）



【資料 7】 食料自給率の推移（農林水産省 我が国の食料自給率の動向より）

図 2-2-1 我が国の食料自給率の推移

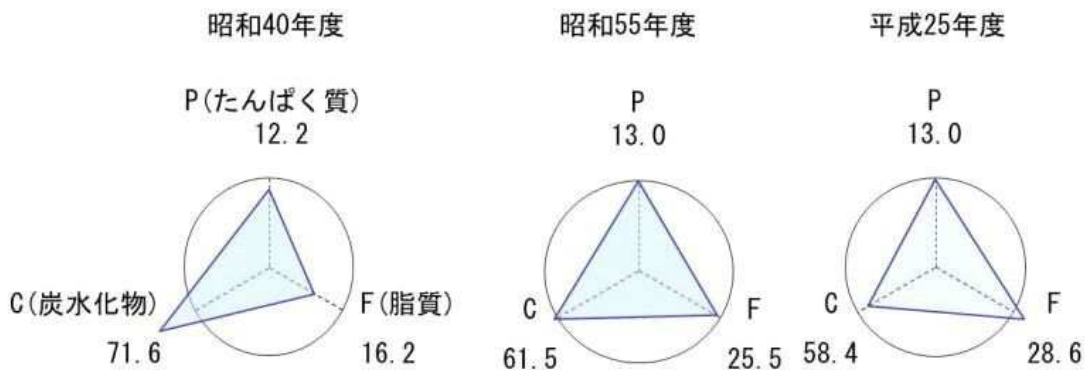


資料：農林水産省「食料需給表」

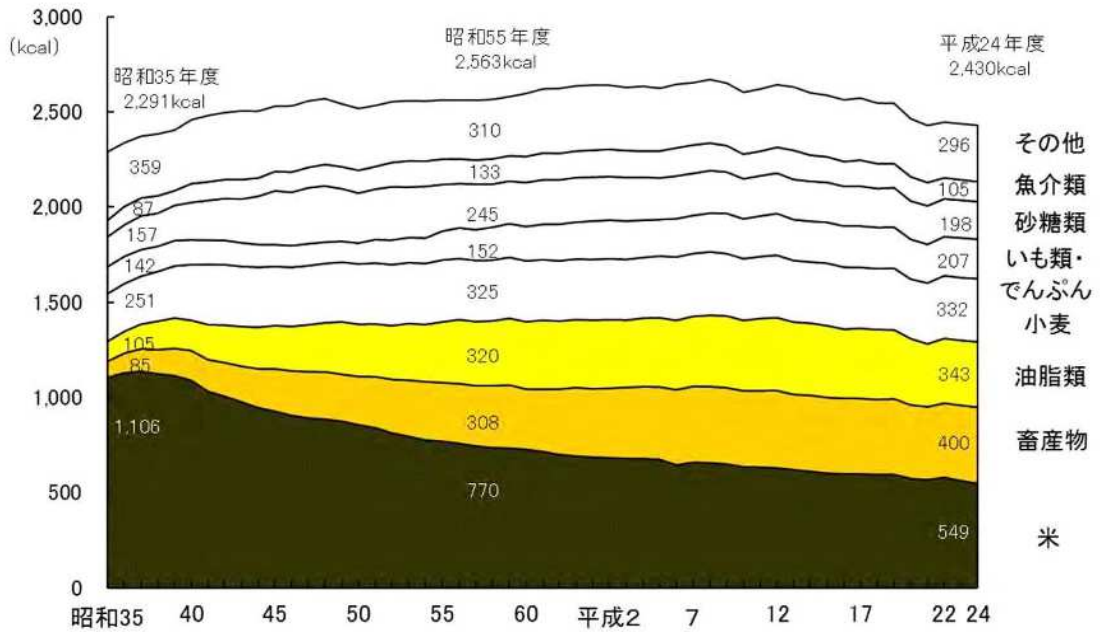
【資料 8】 日本の食糧廃棄量（5分で分かる食料問題より）



【資料 9】 三大栄養素の摂取量割合の推移（農林水産省 食生活の変化より）



【資料 10】品目別供給カロリーの推移（農林水産省 現行の食料自給率目標等の検証より）



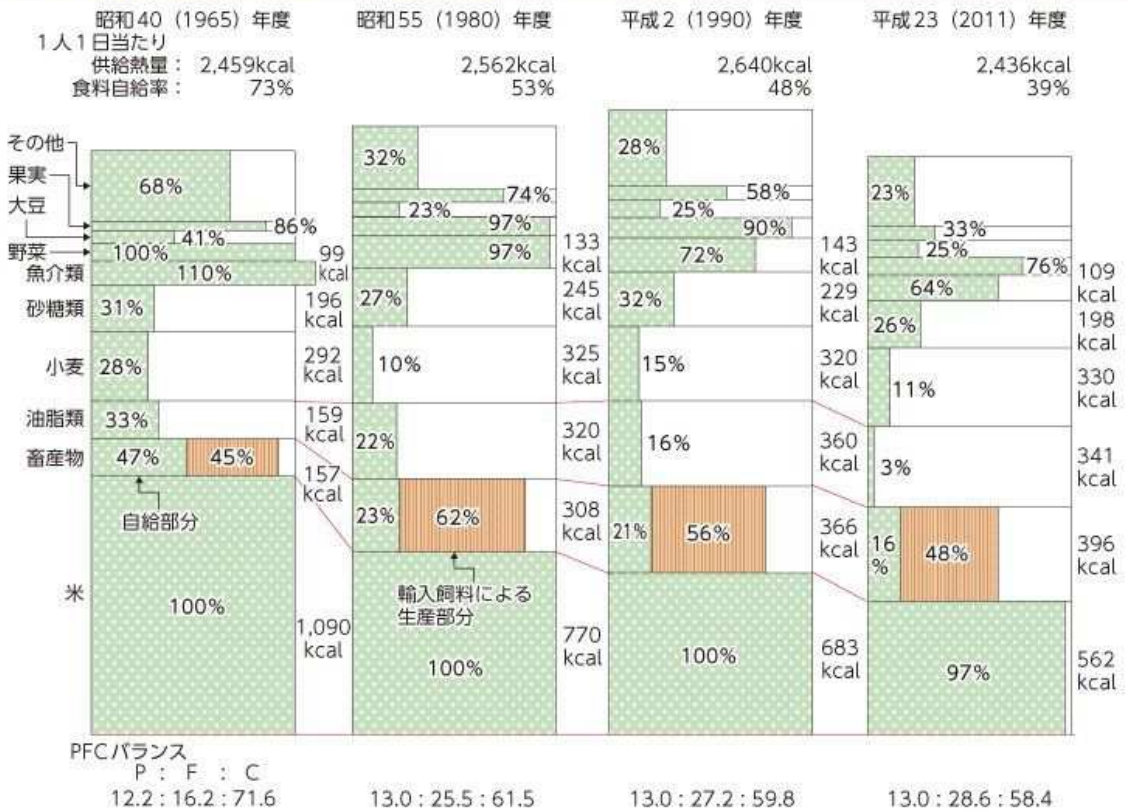
【資料 11】食物別摂取量の内訳推移（農林水産省 食生活の変化 より）



※カロリーベースの総合食料自給率

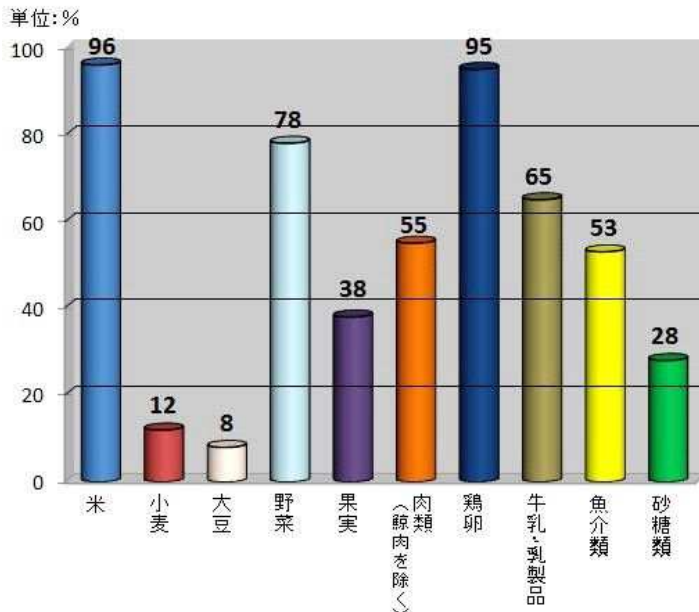
【資料 12】 食料自給率の品目ごとの推移（農林水産省 我が国の食料自給率の動向 より）

図2-2-2 食料自給率（供給熱量ベース）の品目ごとの推移

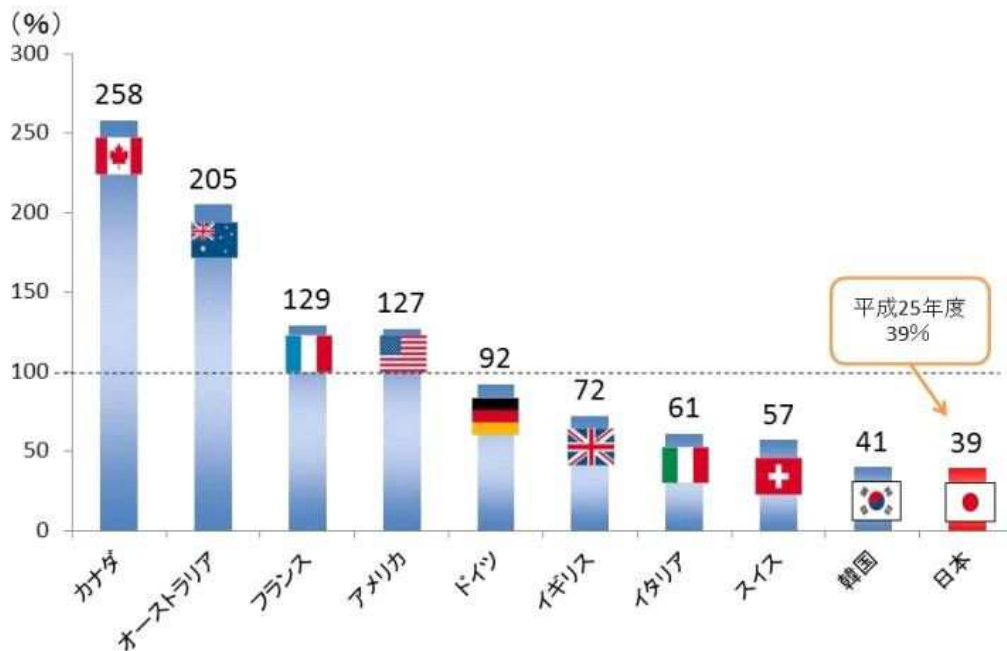


資料：農林水産省「食料需給表」

【資料 13】 品目別自給率（北陸農政局 日本の自給率 より）



【資料 14】世界の食料自給率の割合（農林水産省 食糧自給率とは より）



資料：農林水産省「食料需給表」、FAO“Food Balance Sheets”等を基に農林水産省で試算（アルコール類等は含まない）。
（注）数値は平成23年（日本は平成23年度）。スイス、韓国のデータについては、各政府の公表値を掲載。